

母塾



VOI-27 2019-10-28

新小岩幼稚園・未就園児クラス

illustrated by kurumi

『 ×だめ じゃなく × かけ算を 』

アドバイザー 猪之鼻晴子

あるアンケートで小中学校の先生に「生まれ変わったとしたら、また先生になるか」という質問をしたら、7割以上の先生が「先生にはなりたくない」と回答したという。今の学校の制度や先生をとりまく環境が過酷なものなのだと思う。大学を卒業してから3年以内に教員を辞めてしまう「離職率」は45～50%で他の職業よりも高い傾向にあるという。先生を辞めてしまう理由は第1の要因は就業時間の長さ、休日の少なさ。第2の原因は「ストレス」。

人間は「品質管理」の仕事の続けるとストレスを感じる。品質管理とは「ここがダメ」と不具合を見つけ、どれも同じ製品にすること。メーカーの技術者の友人も品質管理の部門にいて、ものすごいストレスが溜まると言っている。教育の場面でも「この子のここがダメ」「集団からはみ出させてはいけない」という子どもの「品質管理」のようなことをしなければいけないと、先生もたくさんのストレスを抱えることになる。

人間の脳は「主語」を理解しないものらしい。「この製品のここがダメ」「あなたのここがダメ」の主語を理解しないので、全部のダメ×が言った側の「自分」に全部返ってきてしまう。自分の中に×が溜まってしまう仕組みだ。自分以外のものを否定×する → 自分に×が溜まる → 自己肯定感が低くなる → 自信がなくなる・やる気がなくなる → また自分以外のものを否定×する……という悪循環になる。

今の学校がどうしてもある程度集団で安全に均一的な教育をしなければならないシステムになっているので、先生方のストレスも溜まってしまふのだろう。「品質管理」の反対は「個性尊重」。×ではなくて「この子のここがいい」と個性を伸ばすこと。その子の持っている特性を見抜き、伸ばすことが本来は先生方がやりたいことなのだと思う。×ダメではなく その子を伸ばす×かけ算マークをつけてあげるのが教育なのだと思う。

「もう先生はこりこり」と考えている先生の気持ちは、たぶん生徒は感じ取っているだろう。「もうママは子育てはこりこり」と考えているママの気持ちも、たぶん子どもは感じ取っているだろう。学校の教育も家庭の子育ても日々時間がかかり大変な労働ではある。それでも報われるのは子どもが生き生きと成長している姿を実感できるから。「もうこりこり」という時間になってしまうか。「大変だけれどまたやりたい」という時間にするか。それは自分が×ダメを集めるか×かけ算マークを集めるかで決まってくるのだと思う。

新小岩幼稚園の82回運動会はお天気になった。24才になる長男が年中の弟を觀に來た。数えたら長男は66回目の運動会の年長さんだ。今年の年長さんの立派な「カスタの体操」を觀ながら、あの日の長男の姿も見ていた。「メディシンボール」であの日の次男の姿を見ていた。大変だったけれど、ああ、またこの子からやり直してもいいなと横顔を見ながら思った。

harukoinohana1717@gmail.com